

## 第 166 回東京支部 MRI セミナーに参加して

順天堂大学大学院医学研究科放射線診断学講座 小澤拓也

2025 年 7 月 27 日に開催されました第 166 回東京支部 MRI セミナーに参加いたしましたので、報告いたします。私は、大学院生であり臨床での MRI 経験はありませんが、研究を通じて撮像方法やパラメータ調整など MRI への探究心が日に日に増しています。そんな中、本セミナーの案内が届き、関東を代表する著名な先生の講演を拝聴できるチャンス、MRI をさらに磨いていくため、好きになるためのチャンスだと感じ参加を決めました。

本セミナーのテーマは、「I ♡ MRI ～ まずはお友達から～」ということで、各先生が自身の専門領域について MRI との出会いからその領域の基礎から臨床、そして魅力についてご講演いただきました。約 50 名の参加者が、耳を傾け熱心に講義に取り組んでいました。対面かつ少人数ということから質問もしやすい雰囲気であり、また休憩やセミナー終了後に直接質問している方なども見受けられ、参加者にとってポジティブな刺激を受けた非常に良い環境でのセミナーであったと実感しました。

k 空間などの MRI 画像工学は非常に奥が深く理解が難しい分野であると感じていましたが、イラストや初学者にでもわかりやすいような解説でイメージが湧きやすいものでした。また、k 空間と実空間のフーリエ変換を試して視覚的にイメージ可能な Image J や、Bloch シミュレーションという画像再構成まで可能な MRI シミュレーターなど自身の PC ひとつあれば体験できるものを紹介していただき、基礎の部分などでつまづいたときに頼ることのできるソフトだと感じました。また、QIBA の講義では、再現性や正確性など"定量値"に対して改めてその重要性を実感しました。「心にメジャーを」と教えていただいたように、定量値のもつ意味ひとつでアプローチが異なるので、臨床や研究問わず定量値のもつ意味を大事にして取り組んでいきたいと実感しました。

その他にも、IR pulse、脊椎領域時短パラメータ、MRCP を通じた証レーザーへの道、Diffusion MRI、functional MRI、MRS と幅広い内容で講演していただきました。私はまだ臨床での MRI 経験はありませんが、そんな私にとっても本セミナーで各領域の先生が語られた専門分野の魅力や探究心に満ちたお話は、MRI の技術の奥深さと可能性を改めて実感させてくれたものであり、今後の MRI へのモチベーションを大いに高めてくれる、非常に有意義な時間であったと実感しています。

本セミナーは、日頃から MRI に携わっている方にとっては新たな視点や明日からの臨床へのヒントを得る刺激的な時間となり、これから MRI を学び始める初学者の方にとっては、さまざまな領域の先生の「好き」に触れることができ、これからの MRI への扉を開く第一歩となったことでしょう。末尾になりますが、第 166 回東京支部 MRI セミナーを開催していただきました MRI 撮像技術研究班のみなさま、本当にありがとうございました。参加者のみなさまにとって、まさに MRI とお友達になる絶好の機会であったと確信しています。本報告の読者のみなさま、おすすめできるセミナーですので、興味を持たれた方はぜひ来年参加してみてください。

